

第 2 回総合計画等推進市民委員会

事前質問・意見一覧表

事前に送付した会議資料（交付金活用事業の内容及びK P I 等）に対し、以下のとおり質問や意見が寄せられておりますので、回答と併せ、御報告いたします。

I. 寄せられた質問及び意見の件数（総括表）

交付金活用事業名	質問数	意見数	掲載 ページ
1. いきいきとしたデジタル社会推進事業	5	1	資料 1 P3～5 資料 2 P1～3
2. 産学官連携による八戸未来創造事業	6	0	資料 1 P6～8 資料 2 P4～6
3. 未来へつなぐ！はちのへ若者定着推進事業	2	1	資料 1 P9～11 資料 2 P7～10
4. 市営魚菜小売市場を核とした官民連携による個性あふれる商店街の形成と水産業の振興	1	0	資料 1 P12～13 資料 2 P11～13
5. 旧柏崎小学校跡地広場（仮称）を新たな観光資源とした中心市街地の賑わい創出と八戸三社大祭の振興・伝承事業	2	0	資料 1 P14～15 資料 2 P14～16
計	16	2	—

（次ページ以降に具体的な質問や意見の内容を掲載）



Ⅱ. 具体的な内容

1. いきいきとしたデジタル社会推進事業

●質 問

No.	内 容	
1	質問	【掲載箇所】 資料1 3、4 ページ 「ITフォーラムを開催したことにより、産学官連携の基盤が強化され、地域全体でデジタル化を進める意識が高まり」とあるが、客観的に産学官連携が強化された、また意識が高まったと感じたポイントとは何か。また、人材育成に寄与した実績とは何か。
	回答	【担当部署】 情報政策課 はちのへITフォーラム2025の参加者のうち、産（民間企業など96名）、学（27名）、官（38名）となっており、各ジャンルの参加者が一堂に会することにより横の繋がりが強化されたものと考えており、内容についても満足度90%となっていることから、地域DXへの機運醸成に資するものとなったと考えております。 また、人材育成に寄与した実績については、全6回開催した各ワークショップになっております。

No.	内 容	
2	質問	【掲載箇所】 資料1 3、4 ページ スマホサポーターの事業の内容を見るとスマホサポーターの育成やスキル向上となっているが、とするとサポーターの満足度ということか。本来サポーターに指導を受けた方の満足度を図るものではないか。
	回答	【担当部署】 情報政策課 スマホサポーター講習会の満足度ということになっておりますが、モニター参加していただいた方の満足度も含まれております。 サポーターに指導を受けた方の満足度については、今年度より実施する八戸市スマホサポーター制度促進事業においても調査する予定としております。

No.	内 容	
3	質問	【掲載箇所】 資料1 3、4 ページ OpenAIの活用の推進の状況もしくは予定は。
	回答	【担当部署】 情報政策課 OpenAIは本事業の内容に明記されておりませんが、特にOpenAIのみを推進する予定はございません。

No.	内 容	
4	質問	【掲載箇所】 資料2 2、3 ページ グループウェア参加企業数がR5から変動がない要因は。
	回答	【担当部署】 情報政策課 PR不足と参加メリットが薄かったのが要因と考えられますが、今年度よりハチノヘDXラボ推進事業を実施し、より具体的な参加メリットを示しながら、参加企業の増加を図っております。

No.	内 容	
5	質問	【掲載箇所】 資料1 4 ページ、資料2 2、3 ページ 当初児童科学館のデジタルコンテンツ利用者を2025年から見込んでいたが、資料1の4 ページ担当部署評価理由欄で、2028年度予定にずれ込んでいる背景は。
	回答	【担当部署】 総合教育センター 当初の計画では、令和5年度に策定した基本計画により、令和6年度に展示等リニューアルにおける実施設計業務を実施し、令和7年度に施設改修工事を予定していましたが、既存建物における全館アスベスト調査により、アスベスト除去やそれに伴う児童科学館の間取りに大規模な模様替えが必要となったほか、補助金の採択条件である費用割合条件の詳細な算定等が必要となったことから、事業計画を見直して変更したため、当初の計画より遅れが生じたものです。 なお、変更後の計画では、令和9年度に展示等改修工事を実施し、令和10年度にリニューアルオープンする予定としております。

●意見

No.	内 容	
1	意見	【掲載箇所】 資料1 3、4 ページ 満足度はあくまで感想なので、LINEや行政アプリの利用頻度、その他アプリの習熟度を客観的な成果として図ったほうが、効果が見えるのではないかと。 例えば、「見習い → 初級 → 中級 → スマホマスター」のようにレベルが上がっていくと、高齢者同士で会話が弾み、学習の継続率が上がると思うが、ゲーミフィケーションなどの導入は考えていないか。（市民全体の習熟度などに広げてみても面白いのでは）。

2. 産学官連携による八戸未来創造事業

●質 問

No.	内 容	
1	質問	【掲載箇所】資料1 6ページ 産学官連携事業について、長期の実践型のインターンシップは効果が高いと思うが、コストがかかるため持続性の観点で懸念がある。現時点において、将来の費用負担についてどのようにとらえているか。（企業が負担するのか、行政も一定程度負担するのか）
	回答	【担当部署】 政策推進課、若者活躍応援課 長期実践型インターンシップは、当市にとって初めての取り組みであり、企業にとってもノウハウがない中で取り組んでいます。学生・企業双方にとってメリットは大きいと感じていることから、今後も実績の共有とともに、実施する企業の掘り起こしを進めながら、企業からも負担していただき、官民連携で取り組めるようにしていきたいと考えております。

No.	内 容	
2	質問	【掲載箇所】資料1 6ページ 産学官連携事業について、参加学生が市内企業への採用・入社に至った実績は何件あるか。また、実際に外国人材を採用したまたは具体的な採用選考・手続きに進んだなどの進展事例は何件把握しているか。
	回答	【担当部署】 政策推進課、若者活躍応援課 長期実践型インターンシップは、昨年度初めて実施し、今年度2年目を迎えており、本事業に参加する学生は1～3年生が中心ということもあり、まだ採用・入社には至っていませんが、昨年、参加した学生の中には、受入企業に就社したいという感想もいただいております。 また、外国人活用セミナーに参加された企業のうち、新たに外国人材の採用等の進展があった企業については把握していませんが、セミナー後に実施したアンケートでは、実際に働く外国人の生の声や地域事業者の成功事例、採用に係る費用など参考になったとの声もあり、外国人採用のきっかけとなるセミナーになったと考えております。

No.	内 容	
3	質問	【掲載箇所】 資料1 6 ページ 産学官連携事業について、学生側の市内企業へのインターンの需要と供給はマッチするか。受け入れ側の課題はあるか。
	回答	【担当部署】 政策推進課、若者活躍応援課 学生は自身のキャリアアップの視点で参加するケースが多く、本インターンに参加する企業は、こうした学生ニーズを踏まえて、企業課題を解決するためのプログラムを構築し、そのプログラムに対して学生が応募するという形で学生を受け入れているため、ミスマッチが生じる可能性は低いと考えております。 受入側（企業側）の課題としては、人口減少社会・就職の売り手市場という状況を踏まえ、学生の目線にたったプログラム構築・採用活動を検討していく必要があると考えておりますが、そこは、委託先のバリュースhiftが伴走支援する形で対応しております。

No.	内 容	
4	質問	【掲載箇所】 資料1 7 ページ こどもまちなかIT 部運営事業について、「自由な発想と視点で取材等を行う」とあるが、どのようにして自由な発想を持たせるように工夫したのかについて教えてほしい。
	回答	【担当部署】 こども未来課 こどもまちなかIT部ホームページのコンテンツの一つとして、地元八戸の魅力を発信するページを公開しておりますが、このページには、部員となった中高生それぞれが「知りたい」「面白い」と思ったテーマを取り上げて、取材や記事づくりを行っております。テーマを決める際は、運営事業者や活動サポーターである大学生はあくまでサポート役に徹し、部員自らが考えることを重視しております。そのため、テーマ決めの時間を多く設けるとともに、話しやすい雰囲気づくりに努め、部員同士が楽しく意見を交わしながら、テーマや取材内容を決めているところです。

No.	内 容	
5	質問	【掲載箇所】資料1 7ページ こどもまちなかIT部運営事業において、記事を追加したことで、ホームページのサイト閲覧数の増減やこども居場所マップ掲載における施設等の利用頻度など、効果が実証できるものはあるか。
	回答	【担当部署】 こども未来課 こどもまちなかIT部ホームページは昨年3月に開設しておりますが、各ページの閲覧数を把握することができ、昨年度の実績としましては、全体総数としては約34,000件で、中高生の記事は約11,000件となっております。中高生の記事は、昨年度に17記事を追加しておりますが、今年度6月末時点の段階で約5,000件と、既に昨年度の半数近くとなっており、多くの皆様に閲覧いただいているところであります。こどもの居場所マップでは、333か所の居場所を紹介しており、掲載施設の利用者数は把握しておりませんが、公開した本年1月から6月末までの閲覧数は約10,000件となっております。

No.	内 容	
6	質問	【掲載箇所】資料1 7ページ こどもまちなかIT部運営事業において、意見箱への実際の投稿された件数は。また、それらの内容は公開されているのか。
	回答	【担当部署】 こども未来課 意見箱は、昨年3月のホームページ開設時から設置しており、当時は、こどもの意見交換の場所という意味合いを含め、「交流フォーム」という名称としておりましたが、分かりやすい名称にすべきという声を受け、今年度から「こども・わかもの意見箱」に変更しております。これまで、広報はちのへやIT部員募集チラシなどを活用し周知を行っておりますが、ページ閲覧者はいるものの、投稿実績はゼロとなっているため、今後は更に様々な機会を通じて周知を図ることが必要と考えているところです。意見箱では、ホームページで公開してよいかとの質問を設けており、投稿者の了承があった場合には共有できる仕組みとしております。

●意見

意見無し

3. 未来へつなぐ！はちのへ若者定着推進事業

●質 問

No.	内 容	
1	質問	【掲載箇所】 資料1 9ページ 八戸市超帰省®応援事業について、とても良い取り組みだと思うが、市外の対象者にどのように伝えるのかがポイントと思われる。現状どのように周知の取組をしてきたのかについて教えてほしい。
	回答	【担当部署】 若者活躍応援課 SNS…市公式SNS（X、Facebook、LINE、YouTube）、シティプロモーション用Instagram、移住用SNS（Facebook、Instagram）、スクラム8（LINE）へ投稿するとともに、駅、高速バス乗り場、高校、市出身進学者数が多い大学等へのポスター張り出し、チラシ配布をしております。 加えて、広報はちのへやHPなどでのPRや、八戸特派大使用名刺の裏面にクーポンデザインを印刷し、メインターゲットとなる市外在住者に配布するなど協力いただくとともに、令和8年度からはGoogle・X・Instagramにおけるインターネット広告を実施予定としております。

No.	内 容				
2	質問	【掲載箇所】資料1 9ページ			
		八戸市超帰省®応援事業において、13事業者に増加した中で、これらの業種の内訳や具体的な体験サービスには何があるか。出身者とその友人や同僚に絞ることへのハードルについてどう感じているか。また出身者との同行に絞る必要性は高いか。			
	回答	【担当部署】 若者活躍応援課			
		①業種の内訳と体験サービスについて			
		事業者名	サービス内容	料金	優待内容
		特定非営利活動法人 みなとオアシス八戸	通常料金(1名様) ①昼 ②夜	①3,000円 ②4,000円	通常料金限定5%OFF
		ACプロモート	①【WHARF TANECHI BBQ】 食材持ち込みプラン ②贅沢ソロキャンプ	①1,500円 ②18,700円	①1,000円引き ②9,350円引き (半額)
		なんごうプラザ	南郷地域レンタサイクル ①3時間以内 ②1日	①1,500円 (税込) ②3,000円 (税込)	①500円引き ②1,000円引き
八戸酒造	蔵見学(試飲付き)	500円	500円引き		
民宿志保	①女将による「種差海岸の 過ごし方」ミニ案内 ②「八戸での暮らし」を 感じる体験	①相当額： 5,000円/組 ②相当額： 2,000円/人	①5,000円引き ②2,000円引き ③5,000円引き		

No.	内 容			
		③SNS 発信を意識した ワンポイント紹介	③相当額： 5,000 円/組	
	渡辺陶房	八戸焼クロコ体験・超帰省割！	4,000 円/人	500 円引き
	ミチル種差	ミチル種差で非日常の 時間を体験・超帰省割	1 名 1 泊 28,600 円～ 62,700 円	宿泊料金 1 名に つき 1 泊料金か ら 10%割引
	RIVERRUNS	①シーカヤック（半日） ②SUP（半日） ③トレッキング（2 時間） ④ゲストハウス宿泊	①7,000 円 ②7,000 円 ③5,000 円 ④26,400 円 （4 名）	各プログラム 料金の 20%OFF
	N a l y	ビーチヨガ体験 ①1 名参加 ②2 名参加 ③3 名参加 ④4～6 名参加	①6,000 円/人 ②4,000 円/人 ③3,000 円/人 ④2,000 円/人	①3,000 円割引/人 ②2,000 円割引/人 ③2,000 円割引/人 ④1,000 円割引/ 人
	nagisa table	①なぎさキッチンスタジオ 定期料理教室 ②「なぎさの宿」宿泊 ③2 時間の貸切料理体験 （青森の郷土料理メニ ュー）	①6,600 円 ②4 名利用時： 55,000 円 6 名利用時： 66,000 円 ③55,000 円 （2～6 名 で同一料 金）	①1,100 円割引 ②4 名利用時： 19,000 円割引 6 名利用時 18,000 円割引 ③19,000 円割引 ※7 名以上は 1 名ご とに+5,500 円 （最大 15 名まで）
	山の楽校	①そば打ち体験 ②てんぼせんべい体験	①1,700 円 ②200 円	①100 円引き ②100 円引き
	是川縄文館	観覧料	一般 250 円 （大・高 150 円） ※特別展開 催時一般 300 円 （大・高 150 円）	観覧料無料 ※1 グループあたり 高校生以上の 方 4 名まで無 料

No.	内 容	
		② 出身者とその友人や同僚に絞ることへのハードルについてどう感じているか？ また出身者との同行に絞る必要性は高いか。 本事業は、八戸市出身者等が友人に八戸市を紹介することで地元への愛着や親しみを再醸成するとともに、八戸市に馴染みのない方も友人を介して八戸市を知る・体感することで八戸市の周知やイメージアップ、新たな関係人口の創出を図ることを目的として実施しているため、八戸市に訪れた全ての方ではなく、市出身者、もしくは市と何らかのつながりがある市外出身者を申請者の条件としており、ハードルが高い等の意見は今のところいただいておりません。 今後、市出身者との同行に絞る必要性については、今年度の実績を踏まえて、必要に応じて検討してまいりたいと思います。

●意 見

No.	内 容	
1	意見	【掲載箇所】資料1 9ページ 超帰省に限らず、市内に宿泊された方やアウェイサポーター、イベント参加された他県の方に、次回使えるクーポン等を配布することの効果があれば、併せて検討してみてはどうか。

4. 市営魚菜小売市場を核とした官民連携による個性あふれる商店街の形成と水産業の振興

●質 問

No.	内 容	
1	質問	【掲載箇所】資料2 12、13 ページ 「魚菜小売市場」事業における屋内外イベント参加者数が、令和6年度（3,685人）から令和7年度（8,850人）へと倍以上に急増した主な要因は何か。 また、この大幅増の背景として、イベントの開催規模や回数の変化によるものか、あるいは参加者のカウント方法の変更等によるものか、過去年度との同質性について確認したい。
	回答	【担当部署】 まちづくり推進課 イベントの開催回数（R6：5回、R7：5回）、参加者のカウント方法に変更はございません。参加店舗の増加等による規模拡大および、知名度の向上が主な要因と思われます。

●意 見

意見無し

5. 旧柏崎小学校跡地広場（仮称）を新たな観光資源とした中心市街地の賑わい創出と八戸三社大祭の振興・伝承事業

●質 問

No.	内 容	
1	質問	【掲載箇所】資料1 14 ページ 山車制作展示施設における山車展示事業について、展示をすれば人を配置するなどコストがかかる一方で、常設展示ではなく期間限定展示であればその周知が課題となると考えるが、現状と今後の方向性についての考えを教えてください。 また、この公園を含めてウォーカブルなまちづくりの一環として捉えたとき、観光客が来訪するためのアクセスや観光ガイドなどの仕組み作りとの連動をどのように考えているのかについての考えを教えてください。
	回答	【担当部署】観光課 山車の制作のみならず、事業目的である祭りをより身近に触れ合える施設を目指す中で、初めて施設で本格的な制作を行った令和7年度において、山車組と協議し初年度に実現可能な事業として山車展示事業を実施いたしました。令和8年度も同様に展示を実施する予定としておりますが、今後は展示以外にも制作過程の見学や制作体験・お囃子体験などの祭りの魅力向上に結び付く事業の実施を入居山車組と検討していきたいと考えております。 また、併設する広場を整備するに当たり、市民や観光客が中心市街地と三社大祭の魅力に触れながら回遊するルートを調査事業で検討したうえで、デジタルスタンプラリー「ハチノヘウォーカブル」を運用しております。スタンプラリーでは、スタート地点を観光客にとって比較的アクセスしやすい本八戸駅に設定し、各チェックポイントでは、その場所についての説明の閲覧や、限定動画の視聴が可能となっており、観光ガイドに資する内容となっております。

No.	内 容	
2	質問	【掲載箇所】資料2 15, 16 ページ、その他 三社大祭における観光入込客数が、令和6年度（156.5万人）から令和7年度（137.5万人）へと約19万人減少した主な原因・要因について、市として把握している分析を教えてください。 あわせて、先日の新聞等で報道された「出入口の段差問題」について、本事業の推進や利用に与える影響をどのように捉えているか、また今後この段差問題が解消される見通しについて聞かせてほしい。
	回答	【担当部署】観光課 令和7年度の八戸三社大祭における観光入込客数の減少については、同年7月30日に発生したカムチャツカ半島付近の地震による津波警報の発令によるところが大きいと考えております。 また、地盤の沈下により、施設の出入口に段差が生じている件については、毎年安全に山車が制作されることが、施設の目的であると捉え、今年度はその影響が最小限となるよう、山車組と市で応急的な対処を行いました。しかしながら、今後さらに地盤が下がることで、現在の対処では解決できない箇所が出てくる可能性があると考えており、解消に向けて効果的で持続的な解決方法について現在調査していくところです。

●意 見

意見無し